

講演形式・発表形式：一般演題（口演）

抄録区分：看護管理・看護政策の研究

カテゴリー：08：看護提供システム・業務改善

テーマ： 周術期看護の質向上の取り組み ―周術期看護の業務の効率化と見える化―

【目的】A病院において周術期看護の質向上に取り組むために、周術期看護の課題に基づいた業務の効率化と見える化を図ることより、周術期看護に関わる看護職が周術期看護全体を理解した上で、多職種連携を推進しながら、それぞれの役割における専門性を発揮し、質の高い周術期看護を効率的に提供することができるかを明らかにする。

【方法】周術期に関連する病棟、外来、手術室の看護師長、副看護師長ら11名のプロジェクトチームを立ち上げ、4段階のプロセスで実施した。1.周術期ケアパスの作成 2.周術期ケアパスにおける看護手順の整備 3.周術期ケアパスの周知と周術期看護の理解を深める 4.周術期ケアパスの改訂。周術期ケアパス導入の効果を見るため、導入前後で看護師を対象に質問紙調査を行った。質問紙調査は、A病院の外来、病棟、手術室に所属する看護師長を除く看護師68名を対象に、周術期ケアパス導入前の2016年9月と導入後2016年12月に実施した。調査内容は、個人属性、周術期看護の認知度、業務の効率、看護の質、働きやすさ、仕事に関する調査の42項目であった。また、導入後の看護の変化を見るため、事例により検討した。

【倫理的配慮】プロジェクトの実施においては発表者の施設の倫理審査委員会の承諾を得た（承認番号28-4-0729）

【結果及び考察】周術期ケアパスは多職種を含めた連携の仕組みと看護の提供について、患者を中心にイラストを用いて一覧にあらわした。周術期ケアパスを基に整理された周術期看護の課題の中から、全身麻酔を受ける患者への説明パンフレットの作成、周術期口腔ケアの導入、術前アセスメント用紙の改訂を行い、周術期看護の標準化と改善を行った。看護師に向けて周術期ケアパス及び看護手順の説明会、学習会を実施し、実際に周術期ケアパスを導入し評価を行った。導入前後で実施した質問紙調査の結果から、周術期看護の認知度が上がり、多職種を含む連携という概念が浸透しつつあることが示された。事例からは、周術期口腔ケアの実施により口腔状態が改善した。また、外科病棟において患者用のパンフレットが周術期ケアパスを指針に改訂され、病院全体で一貫性をもった周術期看護の提供へと変化を認めた。

【結論】周術期ケアパスによりA病院の周術期看護の見える化が推進された。各部署における看護の専門性が連携の中で発揮され、標準化が進み、周術期看護の効率化と質の改善、質保証につながることを示唆された。